

## 令和6年度 自己評価アンケートの集計結果

優和福祉専門学校

## (1) 教育理念・目標

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4 3 2 1	3.7
・学校における職業訓練の特色は明確になっているか	4 3 2 1	3.3
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想は明確になっているか	4 3 2 1	2.8
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 3 2 1	3.0
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 3 2 1	3.2

## &lt;現状・課題・改善点&gt;

- ・日本介護福祉士会から出された「介護実習指導のためのガイドライン（2019年3月）」に沿って教育目標を設定し教育活動に取り組んできています。ここ数年のコロナウイルス感染症の流行もあり、社会情勢から求められるニーズも一層複雑・多様化しています。その背景も踏まえつつ、教育目標に沿った教育活動の浸透に心掛けていきます。
- ・昨年、コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけは5類感染症とされましたが、今年度も引き続き感染防止対策に努めつつ、学習、介護実習、学校行事すべて年間予定に従って実施できました。1年生の校外研修や、1・2年生の交流会も行い、学生相互の交流を深める行事として十分に役割を果たすものとなりました。
- ・学校の教育理念や目標等については、入学時のオリエンテーションで説明するにとどまってしまうがちです。学生は学校生活の中で日常的に理解を促すように努めていますが、保護者には公式のホームページを通してご理解いただくか必要に応じて懇談の機会を設けるなどして理解を図る努力をしています。
- ・介護人材に求められる資質・能力を育成することを目指して、学生に寄り添ったきめ細やかな教育活動を進めます。また、本校の将来構想をより明確にし、その内容を伝える機会を適時設け、学生や保護者へ向けて内容の周知を図ります。

## (2) 学校運営

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1	3.3
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1	3.5
・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4 3 2 1	2.8
・人事、給与に関する制度は整備されているか	4 3 2 1	2.8
・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4 3 2 1	3.0
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1	3.3
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1	3.2
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1	2.5

## ＜現状・課題・改善点＞

- ・今年度から「高等教育の修学支援新制度」の機関要件が厳格化されたため、「収容定員充足率 5 割以上」という対象機関要件への抵触を回避するため、学則に規定する定員数の変更を行いました。令和 7 年 4 月 1 日から、入学定員 40 名が 30 名に、総定員 80 名が 60 名になります。厳しい現実ではありますが、地域の経済社会にとって重要な専門人材の育成に貢献していくという学校の価値と存続の意義を、今後も広く周知・啓発していきたいと考えています。
- ・教育活動等の情報公開については、必要な内容を適切に発信することができたと思います。特にホームページによる情報は、最新の情報をタイムリーに発信しました。しかしながら発信できた情報量としてはまだまだ十分とは言えません。また、日頃の学校生活の様子が伝えられると、本校の魅力や学生の満足度、保護者との連携なども高められると考えます。

- ・ 今後は、InstagramやX（旧 Twitter）等、SNS を活用し、本校や介護の魅力等を発信していく必要があると考えています。そのためには、専門業者の活用や学生も巻き込んだ情報発信の方法などの工夫が必要となると考えています。
- ・ 職員の一人一台 PC の配備、校内 RAN や教室内の ICT 環境の整備など、情報化システムによる公務の効率化も図られてきています。しかし情報化は大変なスピードで加速していますので、セキュリティ対策やネットワーク、機器等の保守点検など、業者への一括委託による安全な情報管理環境を整備したり、特別な技術を必要とせず簡単に情報発信できるしくみを取り入れたりすることなどが求められてきています。

## (3) 教育活動

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4    3    2    1	3.3
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4    3    2    1	3.3
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4    3    2    1	3.2
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4    3    2    1	3.2
・ 関連分野の企業・関連施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4    3    2    1	3.2
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4    3    2    1	3.5
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4    3    2    1	3.3
・ 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4    3    2    1	3.3

・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1	3.2
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	4	3	2	1	3.2
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教育を確保しているか	4	3	2	1	3.3
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・業務含め）の提供先を確保するマネジメントが行われているか	4	3	2	1	3.2
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1	2.8
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1	2.5

<現状・課題・改善点>

- ・今年度も、基本的感染対策（マスクの着用、手指消毒、登校時検温、健康シート記入、校内においては換気、ソーシャルディスタンスを取るなど）を継続し、授業や施設実習、各種行事等、全て予定どおり実施することができました。
- ・外部講師や教員が高齢化してきていることを踏まえると、講師や教員の確保については今後十分な見通しをもって取り組むことが重要になります。確かな教育の提供を持続するために、人材を確保する組織的な体制を作り上げていくことが課題になっています。
- ・教職員の能力開発のための研修は必須であり、社会情勢から求められるニーズが一層複雑化・多様化している中で、積極的に外部研修等の受講を促していきたいと考えています。今年度は、認知機能評価ツールの使い方やコグニサイズの理論と実践を学ぶ「コグニサイズ指導者研修」に参加したり、オンラインで介養協が実施する研修に参加したりして、資質の向上に努めました。
- ・これからの時代に求められる人材像や介護の将来構想などを踏まえ、令和4年度からICT、メイク、トラベルの3領域の内容を専門の講師から学ぶ、アドバンスプログラムを実施しています。介護業界のニーズに応える一方向性を示すことができたのではないかと考えます。引き続き学生が有用性を実感できる内容に発展させていきたいと思っています。

- ・科目指導に当たっては、シラバスに基づいて目標や内容等、適切な管理・実施に努めています。指導に複数の教員を必要とする科目については、原則、指導展開や指導方法等、事前の打合せを行っています。しかし、事前の時間が十分に確保できない時には、指導者相互の理解不足が生じることもあります。そこで教員間の連携を効率的・効果的に図るために、日々実践している指導展開や指導方法等を蓄積し、指導案としてマニュアル化していく取り組みを進めています。
- ・介護の魅力発信は業界の大きな課題の一つとなっています。本校でも、小中学校を中心に魅力ある「介護福祉の授業」を提案し、低年齢層への関心や理解を促す取り組みをしてきました。従前は、昭和町内の小学校だけでしたが、今年度は、県下全域の小中高校へチラシを配布したところ、小学校 7 校、中学校 3 校、高校 2 校から依頼があり、併せて 12 回の出前授業を実施しました。
- ・また、今年度は、県の「介護福祉士養成施設による介護の魅力発信事業」の補助金を活用し、2月24日にイオンモール甲府昭和でイベントを行う予定です。「魅力発信 かいごフェス」と題して、介護福祉士を目指す学生が、介護の魅力を伝えるイベントにしたいと考えています。

#### (4) 学修成果

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・就職率の向上が図られているか	4 3 2 1	3.7
・資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1	3.7
・退学率の低減が図られているか	4 3 2 1	2.5
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1	3.0
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4 3 2 1	3.2

#### <現状・課題・改善点>

- ・退学者を出さないように学業の支援や生徒指導を行いましたが、残念ながら本年度も3名の退学者が出てしまいました。経済的理由、学業不振など要因は様々であり、学生一人一人に応じた指導やサポートの難しさを感じています。

- ・介護福祉士養成校として、学生を受け入れていますが、近年は、将来への目的や方向性が不明確な学生が散見されます。まさに昨今の社会情勢を反映しているように感じます。「自分に何ができるのか、何がしたいのか、どんな自分になりたいのか」など、介護観や人生の目標の確立に向け、一層の学生支援を図ります。
- ・特に甲斐清和高校からの進学者は、高専連携の取り組みを活用し、高校との情報交換を密にし、一人一人の特性を理解したうえでサポートを行っていくことができると考えています。

## (5) 学生支援

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	3.3
・学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1	2.7
・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	3.2
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1	3.3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1	2.5
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1	3.0
・保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1	2.7
・卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1	2.8
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 2 1	3.0
・高校・高等専門学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 2 1	2.7

## ＜現状・課題・改善点＞

- ・学内実習の試験に向け、練習期間を決めて放課後の実習室を開放しており、自主的な練習を促しています。
- ・学生との個別相談は年間を通して計画的に行っています。また、必要に応じて随時面談を行い、相談内容によっては、担任だけでなく、他の教員や総務の職員が対応する場合があります。適切な支援やアドバイスを行うために、日頃から学生に寄り添いながら、教職員が連携を図り、悩みや課題に対応する体制をとっていくことが大切であると思えます。
- ・授業料等減免制度及び日本学生支援機構の給付型奨学金制度、介護福祉士修学支援資金制度など、介護福祉士を目指す学生への経済支援は年々充実してきています。学生の約7割がいずれかの制度を利用しています。
- ・看護の専任教員が学生の健康管理担当となって、日頃の健康観察や感染症対策等の取り組みを進めています。コロナやインフルエンザなどの感染症の場合、学校内で感染が広がることのないよう、適時適切な対応をとっています。

## (6) 教育環境

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4    3    2    1	3.0
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4    3    2    1	2.8
・防災に対する体制は整備されているか	4    3    2    1	3.2

## ＜現状・課題・改善点＞

- ・情報化に対応する環境は、今や必須の教育環境となっています。情報化を進め、より分かりやすく、効率的な授業を行っていくため、持続的な情報環境の整備・改善が学校運営に求められます。
- ・学校安全計画に従って消防署員を講師として招聘し、年1回避難・消火訓練を実施しています。また、防火設備点検や防犯機器点検等も法令に従って実施しています。今後も適切な危機意識をもって防災対策・対応に取り組んでいきます。

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切---4、ほぼ適切---3、 やや適切---2、不適切---1	評定 平均
・学生募集活動は、適正に行われているか	4    3    2    1	3.5
・学生募集活動において、教育成果は正確に 伝えられているか	4    3    2    1	3.3
・学納金は妥当なものとなっているか	4    3    2    1	3.5

## ＜現状・課題・改善点＞

- ・オープンキャンパスは、本校を知っていただくための絶好の機会だと考えています。今年度は、4回のオープンキャンパスにのべ32名の学生が参加してくださいました。参加のきっかけは、高校からの紹介が一番多いことから、毎回事前に高校の進路指導室などへ当日内容の案内チラシを配布しました。引き続き、指定校や近隣高校と連携し、学生募集の取り組みを進めていきたいと考えています。
- ・今年度の高校訪問は、計画通りに全県下の高校へ伺うことができました。高校訪問では、本校の学校情報の他に、修学支援制度、給与面や働き方などを含めた介護業界の現状や今後の展望、介護職自体の魅力などの情報を提供しています。
- ・web 広告の活用、ラインによる発信など時代に合った媒体を活用した広報活動への転換を図るために、セキュリティなどのネット環境の整備や情報モラルなどの学生指導など、専門業者・専門家の力を借りながら広報活動を展開する方向を検討しています。
- ・外国人留学生については、山梨だけでなく、東京や長野の日本語学校と連携を図り募集活動を進めた結果、来年度8名の留学生が入学する予定になっています。経済的な基盤が弱い留学生のため、入学金の減免、学納金の分納、延納の活用など、サポートを行い、留学生が入学しやすい環境を整えていく必要があると考えます。
- ・県の就業支援センターが行う離転職者訓練事業は来年度も継続します。来年度の定員は4名で、募集は1月8日から2月28日まで行っているところです。入校選考試験は、3月12日の予定です。希望者には学校説明会等で対応していきます。



[自己評価結果]

[ MEMO ]